



自治連だより

第36号



鳥取市自治連合会
会長 土橋 周美

年頭のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、すがすがしい新年を穏やかに迎えに
なられたことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、会員の皆様には、日頃よりそれぞれの地域に
おいて自治会活動に熱心に取り組み、活力ある地域づくりに
ご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

近年、核家族化の進行とともに、住民の生活や意識が多
様化していることに加え、人口減少、少子高齢化、防災対
策など地域の課題は多岐にわたっており、これらの諸課題
に対処するには、地域の連帯感を深め、地域住民がお互い
に手を携え、取り組んでいかなければなりません。

そのためには、町内会・自治会が主体となって地域コミュ
ニティをより充実し、強固なものにしていくことが重要と
考えます。

自治連合会といたしましても、皆様の意見をお聞きしな
がら、組織の強化に努めるとともに、行政との連携・協働
をさらに進め、地域コミュニティ活動を活発に展開し、住
民の皆様が安全で安心して健やかに暮らせる町づくりの実
現を目指していきたいと考えております。

鳥取市自治連合会では、令和六年四月に、創立五〇周年
を迎え、七月に記念事業を計画しています。ご協力よろし
くお願いします。

会員の皆様には、本年も自治会活動になお一層のご理解
とご協力を、お願い申し上げますとともに、地域自治会の
更なる発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、
年頭のご挨拶とさせていただきます。

明治地区

地域課題解決に向けて

明治郷づくり協議会

会長 椿 重雄

明治郷づくり協議会は平成三十年公民館と既存の郷づくり協議会が一体化し、新しい郷づくり協議会となりました。その狙いは、協議会がより積極的にまちづくりを推進していくためであり、住民がまちづくりのために主体的にかかわっていくことを期待したためです。

組織の構成は、公民館と区長会を要として、社福、老人クラブ、体育会、民児協、子ども会、青少年、女性会、小学校、人推協、自主防災等の各種団体を加えた組織です。構成員を四つの部に分け、それぞれの部で地域づく



軽トラマルシェ

- ①生涯学習コミュニティ部会（いわゆる公民館）
 - ②健康福祉人権部会
 - ③安心安全部会
 - ④自然環境地域活性化部会
- それぞれの部の活動を紹介します。

①部会では、「軽トラマルシェ」事業
地産地消と交流を狙いとして、それぞれの農家から採れた新鮮な野菜を軽トラに積み込み、第一水曜日、公民館で販売しています。

地元野菜の販売を通して、交流がなされることが、住民の楽しみになっています。

②部会では、「森林ウォークin安蔵」事業

鳥取市最高峰高山のすそ野にはスキー場、オートキャンプ場、宿泊施設を備えた安蔵森林公園があります。公園を出発して林道をウォーキングします。開催日は全山紅葉の十月下旬。ビューティフルサイトを見ながら、紅葉の中のウォーキングは、まさに心身健康ウォーキングです。歩いた後の地元キノコ汁とおにぎりはまた最高です。地元の人より市民の皆さんの参加がだんだんと増えてきています。令和五年で第十回目となりました。



森林ウォークin安蔵

③部会では、明治地区防災マップづくり、明治防災計画の作成、各集落及び地域で防災訓練を実施し地域の安心安全を守るとともに防災意識を高める活動を行っています。

④部会では、「コスモスロード」事業

明治地区に來ればコスモスが笑顔で迎えてくれる、そんな明るい地域にしようと毎年続けています。年度初めの部会で、コスモスのまき方講習会を開き、各集落で子ども会も一緒にあって除草・種まきを行います。文化農業祭には写真コンクールを行い、コスモスロードの出来栄を競っています。

郷づくり協議会は、年間五十以上の事業を行っています。事業のコンセプトは地域課題解決です。まだまだ課題は山積しています。



浜坂地区自治連合会は、結成五十周年を記念して、「郷土誌」の発行を予定しております。

世帯数三、五八九・総人口八、五六九（令和五年九月末現在）と一戸建や集合住宅の建築ラッシュで巨大化し、浜坂小学校も県内一を誇る児童数六百人超をここ数年続けており、体育館改築や新校舎の建築も完成し、前途洋々な状況に思えます。

反面、高齢者だけの世帯や町内会未加入世帯も増大しており、まちづくりや苦慮しております。

地域活性化のため環境省・鳥取県・鳥取市及び民間企業が連携して、浜坂地区にある「鳥

浜坂地区

住民の連携で「自主防災・社会貢献」

浜坂地区自治連合会
会長 **坪倉尚敏**

取砂丘西側エリア」の再開発（添付図参照）事業を行っております。令和八年には高級リゾートホテル（客室百）の開業が予定されております。

また、長年の念願の「県道の一部の拡幅工事」も完了し、「浜坂江津橋の補強工事」も完了しております。令和五年十一月からは、国交省が三カ年計画で「袋川（千代川合流点②）湯所橋（A）の堆積汚泥除去」により、河川の浄化及び水害対策の工事を予定しております。

令和五年度は、新型コロナウイルスの影響により、開催を断念していた地区のイベントを各町区・各団体の協力を得て、盛大に再開しております。

納涼盆踊り大会【八月五日(土)】
敬老会【九月十八日(月)】
大運動会【十月十五日(日)】
公民館文化祭【十一月三日(金)】

（四日(土)）

防災訓練【十一月十二日(日)】

今後、浜坂地区自治連合会は、浜坂地区の住民の皆様及び各町内会と力を合わせて、社会貢献活動（鳥取市社会福祉協議会・赤十字・共同募金への資金協力等々）をし、浜坂地区の各団体・浜坂地区公民館及び鳥取市と連携して、「災害に強い「安心・安全・住みやすい・楽しい」まちづくりに努めてまいります」と思っています。

令和五年度は、新型コロナウイルスの影響により、開催を断念していた地区のイベントを各町区・各団体の協力を得て、盛大に再開しております。

納涼盆踊り大会【八月五日(土)】
敬老会【九月十八日(月)】
大運動会【十月十五日(日)】
公民館文化祭【十一月三日(金)】

（四日(土)）

防災訓練【十一月十二日(日)】

今後、浜坂地区自治連合会は、浜坂地区の住民の皆様及び各町内会と力を合わせて、社会貢献活動（鳥取市社会福祉協議会・赤十字・共同募金への資金協力等々）をし、浜坂地区の各団体・浜坂地区公民館及び鳥取市と連携して、「災害に強い「安心・安全・住みやすい・楽しい」まちづくりに努めてまいります」と思っています。



浜坂小学校
新校舎・新体育館



敬老会

有楽町町内会は、昭和三十二年三十世帯ぐらいの戸数で、発足しました。現在の行徳二丁目、三丁目の一部の住宅街です。

現在では、人口約二百名、加入世帯数八二世帯の高齢化が進む町内会です。

町内の組織として、当時より、自警団・女性の会・子ども会・体育会・シニアクラブがあり、それぞれの行事に積極的に取り組んでいます。

シニアクラブでは、会員五十名と会員数も多く、毎月のサロン活動（会員同士の談話会や勉強会）や日帰り研修会、名月鑑賞会など幅広い活動に積極的に取り組んでいます。

自警団では、町内の各団体と連携を取りながら、独居高齢者の方々等（要支援者）を対象に、日々の見守り体制の仕組みや災害時の避難支援の仕組み作りに取り組んでいます。その他に、年

明徳地区

力をあわせて 楽しい町内会を

有楽町町内会
会長 **土橋周美**

二回の防災訓練、町内夜警、年二回の狐川清掃、除雪作業等を行っています。

子ども会では、歓送迎会、クリスマスお楽しみ会、自警団との合同夜警、夏休みラジオ体操、年二回の廃品回収等活動しています。

体育会では、町内グラウンドゴルフ大会を開催し、女性の会では、年一回小物入れ作りや生け花など活動しています。

それぞれの会や団体が、積極的に活動することが、町内の活性化に繋がると思っています。

当町内では、聖神社神幸行列に屋台を出して参加しています。令和五年度は、五年ぶりの開催となり、町内一丸となって準備し、大変盛り上がることでできました。

有楽町町内会は、祭りを通して、人とのふれあいを大切に、笑顔であいさつのできる楽しい町内を目指しています。

二回の防災訓練、町内夜警、年二回の狐川清掃、除雪作業等を行っています。

子ども会では、歓送迎会、クリスマスお楽しみ会、自警団との合同夜警、夏休みラジオ体操、年二回の廃品回収等活動しています。

体育会では、町内グラウンドゴルフ大会を開催し、女性の会では、年一回小物入れ作りや生け花など活動しています。

それぞれの会や団体が、積極的に活動することが、町内の活性化に繋がると思っています。

当町内では、聖神社神幸行列に屋台を出して参加しています。令和五年度は、五年ぶりの開催となり、町内一丸となって準備し、大変盛り上がることでできました。

有楽町町内会は、祭りを通して、人とのふれあいを大切に、笑顔であいさつのできる楽しい町内を目指しています。



有楽町防災会

令和5年度 先進地研修視察報告

日時 令和5年6月7日（水）
場所 金沢市役所第二本庁舎会議室
出席者 [金沢市町会連合会] 中川会長ほか5名、
事務局1名、市民協働推進課2名
[鳥取市自治連合会] 土橋会長ほか14名、
事務局3名

コロナ禍の影響により4年ぶりの研修視察となりました。

金沢市は加賀100万石の城下町で人口約458,000人、総世帯数211,581世帯、うち町会加入世帯数144,294世帯、町会加入率68.02%、町会数1,345町会、一方、鳥取市は人口約181,000人、総世帯数81,914世帯、うち自治連合会加入世帯数50,232世帯、加入率61.3%、町内会数826町内会となっております。

人口減少・高齢化が進むなか、両市とも総世帯数は増加傾向にありますが、金沢市は町会への加入数が増加傾向にあるのに対し、鳥取市は減少傾向となっています。また金沢市は行政側からも加入促進に向けてマンション等、集合住宅の建設時には発注者や建設業者に町会加入を促していただくように地域の情報をお知らせするなど市民に積極的に働きかけているとの事です。

公民館活動も概ね小学校区ごとに地区公民館が設置（鳥取市も同様）されており、金沢方式と言う運営の中

で地域主体で職員を雇用することにより地域に寄り添った運営がなされています。なお、運営費や施設整備費も一部は地域負担となっています。社会情勢の変化もありますが、共通の悩みとして役員の高齢化や担い手不足、ライフスタイルの変化、若い世代の参加が少ないなど同じような問題を抱えているのが実情です。

研修視察を終えて

鳥取市に於いても自治会加入促進活動に対する、行政の支援は必要不可欠です。

自治会加入率低下の最大の原因は、大型マンションなどの集合住宅入居者の未加入であり、地域における自治会や町内会での解決は難しいことから、鳥取市に対して加入促進に関する条例制定を要請し、建設業者・マンション管理会社・マンション管理組合などに対して、鳥取市からの働きかけを要望します。

（文責 福田正美）



町内会長研修会に参加して

令和5年7月7日、さざんか会館で市内の町内会長等を対象に研修会が開催され、鳥取市自治連合会地域支援アドバイザー西村浩一氏による「じぶんたちのまちづくり～町内会は誰のためにあるの？～」をテーマとした講演を71名が聴講しました。

町内会の役員のみならず手不足や一部の者への負担集中は、町内会長の多くが突き当たる大きな壁でもあります。講師も指摘されたように、定年制の延長による人材の供給不足や価値観多様化による地域共同体意識の希薄化等の背景は現代社会の大きな潮流でもあり、すでに一町内一地区の努力や工夫の範疇を超えてしまったとする共通認識も広がっていると思われます。

そうした中、今後とも町内会活動を継続して行くためには、町内会の役割や課題の整理が重要との考え方にも異論を挟む余地はありません。なかでも「防災活動」の重要性が提示されたことや、役員負担軽減や行政との関係見直しが急務との考え方も、多くの関係者が賛意を示すものです。

さらに、個人的な意見を加えるなら、少子化と

単身世帯増、人生百年時代と言われる超高齢化社会の到来は、かつて日本人が経験したことのない未知の時代を迎えており、社会環境も旧来の常識を超え大きく変貌しつつあることを直視すべきだとも思っています。

では、どうする？解決策の模索すら容易ではありませんが、多くの参加者が熱心に聴講し、自らの町内に思いを馳せたと想像すれば、悩み多き関係者が集う研修会の意義を改めて確認することができた盛夏の日でもありました。

（文責 石本昭雄）

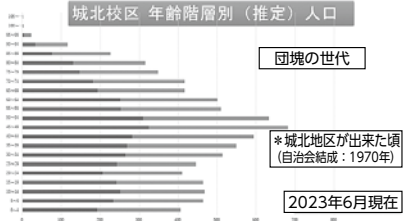


城北地区 行事を通した まちづくりの担い手育成

城北地区まちづくり協議会
会長 鈴木伝男

城北地区の自治組織は、昭和四十五年に結成されました。以来、「安全・安心、住んでよかったと実感できる城北」を合い言葉に、立場の違う誰もが「いいね!」と感じるまちづくりの輪をみんなで創り上げていく取り組みを進めてきました。ところが、いつ頃からか、地域の将来を担う若い世代が地域に関わる機会が減ってきました。その一端は、健康長寿化によって、長期にわたって地域活動に参画する高齢者が増えたこと。結果、役員が固定化し、活動内容が膠着化する要因となり、若者世代が魅力を感じて、新規に地域活動に参画しにくい環境となり、悪循環を生んでいると考えられました。

城北地区の高齢化率は二一・九%で、三十歳から五四歳の階層別人口は全体の三四・九%になります。この事業のねらいは、納涼まつりの実施過程を



通して、地域行事をみんなで創り上げる喜びを味わってほしいと考えました。同時に、保護者世代が地域に関わることで、子ども達もが地域とのつながりを学び、未来の地域づくりの主体となることを期待しました。工夫した世代と、若い世代が、協力して企画・運営する組織としました。見通しが持てるように業務内容を「規約」という形で具体的に「見える化」し、義務教育保護者世代を委員会の中核に据えました。実施する意義を三点に絞って共有して進めました。◎子どもたちにとつては、夏休みの思い出づくりの大切な場 ◎住民同士の顔の見える人間関係を構築する場 ◎地域の活性化と、まちづくりの担い手育成に貢献する場 結果、二時間の開催時間内に一、五〇〇人（推定）の来場者があり、目玉となるブース・負担軽減を図った販売価格・事前の複数回広報・会場選択・駐車場確保等が功を奏し、成功裏に終了し、以後の事業でも、若い世代の参画者が増えつつあります。



納涼祭

美穂地区 ガンバル美穂地区

美穂地区区長会
区長会長 小林憲二

美穂地区は東側には北流する千代川を国道五三号線に沿うように走り、西側には農業用水路の大井手川と堤防桜、山沿いには鳥取自動車道、南側には江山校区の小中学校を統合して新たな義務教育学校「江山学園」と遠くに「扇ノ山」を望み、北側は秋には稲穂の先に大砂丘と日本海が見えてくる様な位置する自然豊かな農村地帯です。コロナウイルス感染症が昨年五月に五類に移行されたことから、八月五日に大イベントである美穂地区納涼集う会を、まちづくり協議会、各専門部会、公民館、区長会も結集して開催いたしました。



美穂地区の「力」文化祭

四年ぶりで不安の中、保健所の指導も受け安全対策を講じて、飲食を含む屋台、アトラクションなどを実施し、多くの来場者で楽しみ賑わい、最高に暑い「熱い」元気を取り戻す納涼集う会を開催する事ができました。

十月二十八日・二十九日には大事業である美穂地区文化祭が、美穂地区公民館とまちづくり協議会に地域も一体となり開催されました。公民館や地域で活動している各種団体、サークル、保育園、学園、個人が成果発表する場です。年齢問わない幅広い作品展に、催しもの、バザーコーナーと、昨年は四年ぶりに飲食も再開し、最終日は賑わい盛り上がり美穂地区の「力」と元気を発することができた文化祭でした。この二つの大イベント、大事業の開催は美穂地区の大きな「力」です。



最高に暑い「熱い」納涼集う会

「美穂まちづくり計画」

- ① みんなに優しいまちづくり
- ② 安全で安心できるまちづくり
- ③ みんなで育てみんなで学ぶまちづくり
- ④ みんなで生き生き健康なまちづくり
- ⑤ 緑豊かな環境を活かしたまちづくり

これからも美穂地区まちづくり協議会、公民館、区長会と地域一体になり地域の皆様が集いやすい環境づくりに努めながら美穂まちづくり計画の実現に近づけていきたいと思います。

令和5年度 三市姉妹交流会報告

令和5年9月22日(金)鳥取砂丘ビジターセンターに於いて、岡山市連合町内会(9名)、姫路市連合自治会(17名)、鳥取市自治連合会(11名)計(37名)により、4年ぶりに交流会が開催されました。

交流会は三部構成となっており、

第一部 研修会では共通テーマ「地域の活性化について」、三市から発表がありました。

・姫路市連合自治会の活動

地域の活動拠点の活用として公民館との協働により、地域団体での利用の促進、及び住民による地域講座を実施していく。

子ども会の見直しとして、連合体を廃止して困りごとの調査やその仕組みについて改善していく。

老人クラブの見直しとして自治会との意見交換を密にし、継続可能なあり方を見出していく。

・岡山市連合町内会の活動

「落書きバス」がやってくる。

小学生が下電バスに落書き体験することで、運転席からの死角を確認する。

「バスをきれいにするぞー」では、子どもたち全員が落書きの残をスポンジ等で落としていく。

さらに、子どもたちを乗せたまま、バス洗車台にて再洗浄し、バスの安全運行への理解を深めることを目的とされていました。

・美保南まちづくり協議会・美保南地区区長会の活動

「南っ子を守るんじゃー」では、子どもたちが安心して登下校できる環境が確保できた。

「サマースクール」では、子どもたちが成長する

ことに伴い、子どもたち同士のつながりが強まった。

自治会と子どもたちとの交流とつながりが強化されたとの報告がありました。

・筆者の感想

三市ともに、自治会が子どもたちと親密に交流することで自治会活動の重要性を認識し、活動が未来永劫、継続していくことを真剣に考えておられることに感銘を受けました。

第二部 三市参加者で昼食を取りながら歓談・交流を深めました。

第三部 視察研修では、鳥取砂丘「砂の美術館」に於いて現在、開催されているエジプト展を觀賞しました。

この度のエジプト編では、ピラミッドやスフィンクス、アブシンベル神殿など、砂で再現された、実物に近いリアルな感覚と臨場感を楽しみました。

最後に次回三市姉妹交流会を姫路市に於いて開催されることを確認し、閉会となりました。

(文責 西川功美)



北海道 時計台の鐘がなる札幌市

令和5年度全国自治会連合会北海道札幌大会が10月18日、かでのアスピックホールにて開催されました。全国より約500名が集い、オンラインで25連合会が参加しました。鳥取県自治会連合会からも7名が参加し、盛大に開催されました。

第一部式典は、全国自治会連合会長谷川啓二会長の挨拶の後、開催地を代表して北海道鈴木直道知事からの歓迎の挨拶を受けました。内閣総理大臣のメッセージの後、自治会活動の功労者99名が全国自治会連合会会長表彰を受けられました。鳥取市自治連合会からは、西川功美副会長が栄えある賞を受賞されました。続いて、大会宣言が全会一致で採択され、全国自治会連合会推薦、令和4年秋の叙勲6名、令和5年春の叙勲13名の紹介、次期開催地の福井県自治会連合会奥村清治会長の挨拶の後、第一部は閉会しました。

第二部の記念公演では、「プラタモリ」で案内人を務めたこともある「街歩き研究家」和田哲氏による「あなたとつながる北海道・札幌」と題して、古地図と現代の地図を比べると札幌市の発展の様子がよくわかり、大変面白かったです。

第三部の活動発表では、苫小牧市拓勇東町内会の「日本唯一、ウォーキングバス発車」子どもと高齢者が一台のバスのように集団登校をする取り組み、シニア役員のデジタル化の取り組みなど大変参考になりました。

第四部の交換会では、江差追分、千舞泉美太鼓などのアトラクションに誰もが魅了されました。各県参加者との情報交換や交流を深める事ができ、大変有意義な大会となりました。

(文責 土橋周美)



松保地区

災害に強いまちづくりをめざして

松保地域づくり協議会

会長 竹内房男

松保地区はJR鳥取駅から西に約3kmに位置し、湖山池の南岸から東に約4kmにわたる十六集落で構成され、一〇六〇世帯約三、〇〇〇人が居住しています。

松保地域づくり協議会は、「地域に誇りを持ち、皆が相互に支え合い活力ある安全安心な地域づくりをめざす」を目標に平成二十一年に設立され、地域の活性化や地域課題の解決に向け活動しているところです。

組織は、「総務・広報部」「生活・安



起震車体験

全部」「福祉部」「体育部」「生涯学習部」の五部から成り、地域の高齢化対策や伝統文化の継承問題等に取り組んでいます。その中でも特に「生活・安全部」が中心となり、地域の防災活動に力を入れていきます。

近年、地震や豪雨など自然災害が多発しており、その被害は激甚化しています。松保地区においても、地域住民の防災意識は高まってきています。その一方で、地域としての防災体制が整っていないという課題があります。そこで、令和二年松保地域づくり協議会において、災害時に即応できる地域防災体制の整備に向けた協議を開始し、令和三年の地域づくり総会で、有事における「松保地区災害対策本部」の組織・設置要綱・設置基準等が承認され地区の防災体制が整備されました。

今後大規模災害発生時、道路の寸断等で行政職員が松保地区に急行できない場合は、松保地区災害対策本部が立ち上がり、地区住民（災害対策本部役員）の手で避難所開設や運営など災害初動対応を行うこととなります。

現在、この組織を真に有効性のある対応ができる組織になるよう、緊急連絡網による情報伝達訓練や住民対象の避難訓練等の各種訓練や防災の専門家を招いた防災学習会などを行っています。さらに有事に備えて、簡易トイレや発電機、リヤカー、非常食、飲料水

等の備蓄にも力を入れているところで

災害時には、「自助」「共助」「公助」が必要とされます。「自分の命は自分で守る」「自助」が基本ですが、大規模災害の場合「公助」が迅速に期待できないことが予想され、特に「自分たちの



7月豪雨松保保育園前道路冠水の様子

地域は自分たちで守る」「共助」が重要になってきます。各種訓練や学習会を通して防災意識を高め地域住民が連携し助け合いながら地域の被害を最小限に抑えるべく、これからも「災害に強いまちづくりをめざして」防災活動に取り組んでいきたいと思えます。

祝 総務大臣表彰

土橋 周美会長

鳥取市自治連合会会長として、長年住民自治活動の推進にご尽力された功績により、令和五年度自治会等地域による団体功労者総務大臣表彰（全国自治会連合会推薦）を受賞されました。

編集後記

自治連だより第三六号の発刊に際し、原稿依頼に快く応じていただきありがとうございました。

この度の原稿は、コロナ禍後の自治会・まちづくり活動などが順調に回復され、地区を盛り上げておられることが確認できました。

また、自治連における研修会なども活発に行われており、以前の活動が戻ってきたことに大変うれしく、心強く感じました。

発刊に当たり、広報委員の皆様には、大変お世話になりました。

今後各地区からの情報提供をお願い致します。

令和六年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますことを祈念申し上げます。

(広報委員長 西川功美)